

瀬戸内タウンミーティング（邑久地区）

平成 21 年 10 月 15 日（木）19 時～21 時

瀬戸内市役所 2 階 大会議室

参加者：男性 24 人、女性 8 人、計 32 人

市民から出た意見と市長の反応

- ・ 社協のデイサービスのボランティアをしているが、今年度いっぱいデイサービスがなくなると聞いた。いい設備があるのにもったいないと思うし、利用者からは「いくところなくなる。早く死ねということか」働いている人からは「なぜ閉鎖するのかわからない」との声がある。現場の声を聞いて、サービスを継続してほしい。

（市長）社協の考え方もあると思うが、デイサービスの需要があることは他からも聞いている。社協へ伝えていきたい。いい施設であるので有効活用すべきと思う。どんな活用方法があるか意見を聞きたい。

→・市民病院の新しい診療科としてはどうか。

→・児童保育、特に病児、病後児保育の場としてはどうか。

（市長）いただいた意見については今後考えていきたい。

- ・ 病院が古い、汚い、診療科が少ないため不便と感じている。また親と配偶者の 2 人を介護しているが、先日検診のバスがやってきたが、段差があるため乗せられなかった。このため民間の診療所で受診したが、費用が高かついた。歩道も段差があったり傾斜がついていたりして歩きにくく、外出する気にならなくなる。この現実をよくしていくことで将来があると思う。

（市長）病院は耐震化ができておらず、あの建物をそのまま耐震化するのは難しい。どのような医療サービスが必要か、アンケートを実施する予定にしている。このアンケートの結果から、病院を建替えるのか、またどんな診療科を設定するのか決めていきたい。検診のバスについてはノンステップバスにするなど対応方法があると思う。コスト面の問題があるのでよく考えたい。また、従来の方でも検診に来てもらいやすくする方法もあわせて考えたい。道路については優先順位をつけてやっているところである。

- ・ 下水道工事の会合があったが、具体的な日程が示されない会合だった。後に回覧板で日程がわかったが、会合自体が無駄に思えた。あと、専門的な知識を持った職員が少ないと感じた。また、国保税の関係で市役所に問い合わせ

たらミスがあったことがわかった。そのときの職員の対応が悪かった。障害者特別手当を申請したら断られたが、岡山市では簡単に申請が通ったと聞く。市によって違いがあるものなのか。

(市長) 職員の対応については接遇や専門知識に関する研修を行い、能力の底上げを図りたい。加えて、下水道については県などに即戦力となる専門職員の派遣要請を検討している。また、下水道計画を見直しているところである。ミスが起きてからの対処と同時に、ミスの起きにくい環境、組織づくりをやっていききたい。全部を一度にできるわけではないので、できるところから順次やっていききたいと考えている。障害者特別手当については担当部署に確認をさせていただく。

- ・ 下水道の工事期間が短いためか、地元との関係づくりをおろそかにしているように思う。市から指導をしてほしい。また、工期を長くできるよう発注を早めにしてほしい。

- ・ 今までの歴史を見つめなおし、失敗から学ぶことで今回の総合計画が絵に描いた餅にならないようにしてほしい。

例：南北道・・本当に沿線地域の開発、企業誘致が実現するのか、ランニングコストについてもよく考えてほしい。

例：市民病院・・赤字にならざるを得ないのか、民間病院では黒字にできるのか。また医療費を抑えるための工夫をしてほしい。

(市長) 南北道については私が就任した時点で止めた場合には進める方と比べて費用がかかることがわかったため、現在進めているところ。活用方法をしっかりと考えたい。病院については全国にいろんな事例がある。それぞれにデメリットもあると思うのでよく考えてやりたい。アンケートもやるのでみなさんの意見も反映させていきたい。

- ・ 人口推計について、邑久と本庄が一緒になっているが、かなり離れているので一緒に考える必要がないと思う。また、他の地域についての推計も見せてほしい。また、人の定着、定住化、特に生産年齢人口の増加や限界集落への対応についても考えてほしい。

(市長) これは小学校区単位で行っている予測なのでご理解をいただきたい。定住化については横断的施策として具体的に計画に盛り込みたい。限界集落の予測については別途行う。

- ・ 30年後というと遠い気がする。15年くらいの短いスパンで考える必要もある

のでは。また小学生、中学生の思い、意見をくみとってほしい。

(市長) 短いスパンでは具体的に何をやるか、というところと考えており、基本計画の部分に具体的なものを描く。30年後という長期の構想は夢を市民と共有したいと考えている。小学生、中学生の意見についてはこのタウンミーティングとは別にいろいろなグループの方に瀬戸内市の未来を語っていただく「みらい会議」をやっていきたいと考えている。このグループに「小学生、中学生」を盛り込めるか、考えたい。

- ・ 情報公開が足りていない。徹底をお願いしたい。

例：広報誌のページ数を増やす

(市長) 情報公開を行うのは当然として、いかに市民にわかりやすく伝えるか、ということを考えてやっていく。

- ・ スポーツ公園の管理が変わると聞いた。邑久と長船の施設を統廃合するといった話になるのか？

(市長) 指定管理者制度への移行を考えており、市以外の団体に指定管理者になってもらえるよう団体の育成を行っているところである。このような団体は市にとっての資産であると考えている。特に施設の統廃合ということは考えていない。

→・ 備前の運動公園のように高齢者への値引きなども考えてほしい。

(市長) スポーツに触れる機会の拡大の手法の一つとして考えたい。

- ・ 計画を作るのはいいが、実際にできるのか。国や県の補助を受けるのか。市単独でやるのか。また市長が変わっても継続するのか。

(市長) 全てを任期中にできるか、ということについては財政面の問題があり、難しい。補助などについては、国や県の事業をとってくるための情報を早めに拾えるようにしていく。これは私の言っている「攻めの自治体経営」のこと。この総合計画は「30年後のために」理想像を描き、具体化するための計画にしていく。計画の実行については実施計画の部分になるが、数値目標をたてて毎年進捗をみていく。

- ・ 瀬戸内市には働く場が少ない。働く場の確保をお願いしたい。また高齢者にとっても安い賃金でいいので働く場がほしい。

(市長) 働く場は大切と考えている。現在企業誘致ができる場所は豆田の工業団地にある。あの部分が売れないと他の地区、例えば南北道沿線を売りに出せないということもあり、どう売り込むか考えている。企業誘致が定住化に

直結するというわけではないが、若者の流出を防げると思っている。高齢者の働く場については、生きがいをもって暮らしていける場として整備が必要かと思う。よく考えたい。

- ・水道管が破裂して、対応を市にお願いしたが、直るまで何日かかかった。自治会の役員は地元の人からの苦情を受けることになるので早めの対応をお願いしたい。

(市長) 遅くなった理由については確認できていないが、改善するようにしたい。イギリスの役所に勤めていた頃、対応までの期間を数値目標にして改善を続けていたので可能なところから取り入れてみたい。

- ・資料 6 ページに失業した人の観点が入っていないと思う。北欧では失業者への職業訓練と所得保障の制度があり、再就職がしやすい環境にある。このようなセーフティネットの政策を盛り込めないか。

(市長) 場の整備などをやりたい。また高い農業技術を継承できる場が無いので整備を考えている。

- ・あるテレビ番組でどこかの村長の話をしていて、その村長は民間企業の社長であり、自分の会社に村の職員を研修に行かせていった。また無駄を排除し、補助金に頼らない行政を進め、村民にもまちづくりに協力を求めるなど、創意工夫を進めている。瀬戸内市もそんな市になってほしい。

(市長) 前の職場では役所の職員を受け入れていた。民間企業と市職員との交流も考えたい。

また、これまでは国や県の補助金のメニューにのるためにがんばってきた。農水省の職員に来ていただいているが、一緒に考えているのは国にとってモデルとなる事業をやっていくことで、瀬戸内市にとって無駄のない事業ができると考えている。

市民がやれることは市民がやるまち、という考え方は参考になった。市と市民ではそれぞれできることとできないこと、得意なことと苦手なことがある。市民のみなさんができないことは市が受け持つということを基本として、市民のみなさんにもお願いをしたい。

- ・タウンミーティングを定期的にやっていただきたい。

(市長) 年 1 回程度、予算策定前にやりたいと考えている。また、自治会単位での集会も呼んでいただければ極力出向くつもりでいる。